大草谷津田いきものの里自然観察会

大草の伝統文化に触れよう

木下順次（千葉市）

日　　時：2016 年 1 月 17日（日）10 時 30 分～12 時　　天候：晴
参　加　者：大人 11 名　子ども 1 名
担 当 指 導 員：山岸文子・木下順次

1 月の第 3 日曜日は大草谷津田いきものの里の年明け 1 回目の観察会の日であるとともに、地元八幡神社でおびしゃ祭がおこなわれる日でもある。

オビシャとは？

太陽を模した的を弓矢でいるという正月の弓神事。関東地方に数多くみられる立ったまま的を射る「歩射」が訛ってオビシャとなった。弓を射った後、「的破り」「的壊し」をする所も多い。古い太陽を壊し、新しい太陽をよみがえらせているのである。

高麗博物館「鳥居・しめ縄はどこから来たか」（2010 企画展パンフレット）より

こうした行事について学ぶと、自然と人びとの生活が今よりずっと密接につながっていた昔、自然の「めぐみ」と「いたみ」についての思いは今とは比較にならないほど大きなものだったのだろうと想像する。今回はいわゆる「自然観察」ではないけれど、伝統文化を通じて人間が自然をどうとらえていたかを感じる観察会となった。

駐車場わきにある馬頭観音像がそのスタートである。「安永四年（1775 年）東金　大草」の文字が読み取れる。今は細い生活道路になっているが、かつては東金に通じる街道だったのだろうか？　その道を先に進むと八幡神社だ。入口には東日本大震災で倒壊してしまった鳥居跡がある。鳥居は俗界と神域を隔てるものだが、そもそも神の使いである鳥が止まる棒を立てるという大陸の風習が稲作文化と共に伝来してきたものだそうだ。

シラカシやスギやヤブツバキなどで構成される鎮守の森の囲まれた八幡神社の境内はたいへん静かである。希望者でお参りをした後、参道を先に進みいつもの観察路に戻った。下畑ではかつての炭焼き窯跡や竹を編んだしがらみなどを観察し、昔の生活について思いをはせた。

12 時から始まったおびしゃ祭にも参加した。手作りの弓矢で、同じく毎年新しく手作りする正～十二月の丸が　書き込まれた的を射る。氏子の皆さんに続いて観察会参加者も弓を引かせていただいた。

自然と信仰、習俗、文化のつながりを考える上で大変貴重な体験であった。